

海草振興局農業水産振興課

普及だより

令和5年春号

2023. 3. 24



〔写真説明〕 左上：橋詰氏（匠の技 伝道師）による研修会 右上：西居氏（匠の技 伝道師）による研修会
 左下：水田転換畑における種ショウガ収穫調査 右下：河西農業士会 簿記研修会

皆様におかれましては、協同農業普及事業の推進に御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。昨年来、ロシアのウクライナ侵攻や世界的なインフレによる物価上昇により、肥料や資材価格の高騰などによってコスト高が顕著となり、農業経営において大きな問題となっています。しかしながら、一方では、新型コロナウイルス感染症も5月にはインフルエンザと同じ感染症法上の5類感染症に分類されるなど、ようやく社会活動が活発となりつつあり明るい兆しもでてきたように思います。

農業水産振興課では、時々の地域課題を3カ年の普及指導計画を定めて、課題の解決に取り組んでいます。令和5年度は、令和2年度に設定した課題の最終年度になり、これまでの取組を総括することになります。

現在取り組んでいる課題は、重点課題として「次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト」、一般課題の「和歌山市内での種ショウガ生産拡大」と「新規就農者の技術向上支援」の3課題となっています。とりわけ重点課題については、下津みかん産地の活性化に向けて、担い手、新品種、農地等の対策などを総合的に取り組んでいます。さらに、今年度「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」として世界農業遺産への認定をめざしており、産地での気運を盛り上げていきたいと考えています。

また、農業者数が減少する中、担い手の育成が喫緊の課題となっており、地域での就農希望者の受入体制の整備や新規就農者の技術力、経営力の向上に取り組むとともに、卓越した技術をもった農業者を「匠の技伝道師」として認定し、その技術を若手農業者へ伝承する活動も実施しています。

今後も農業者の意見をお聞きしながら、関係機関の皆様とも連携して地域農業の課題解決に向けて職員一同、鋭意取り組んでまいりますのでご協力よろしくお願いいたします。

<海草振興局農業水産振興課 課長 宮向 克則>

普及指導計画の取組経過

重点課題

次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト

普及組織の重点課題として「新規就農者」「新品種」「省力化」「農地」をキーワードに3年間のプロジェクト活動に取り組んでいます。本年度の主な実績について紹介します。

(1) 「新規就農者」の確保及びサポート体制強化

下津地域において新規就農者を安定して確保できるよう、産地受入協議会設立の必要性について関係機関で意識統一がなされました。みかん農家への新規参入希望者が増加する中、受入体制を整えるため協議会の設立に向けた準備を進めています。

(2) 「新品種」植美の導入

「植美」は令和元年に登録された晩生系温州みかんの新品種です。主力の林温州と比べて浮皮が少ないのが特徴で期待されている品種です。JAながみねと連携し継続した調査を実施中で令和4年産においても浮皮の発生が少ないことを確認できています。

(3) 「省力化」施設及び機械の導入推進

研修会を開催するなど、スマート農機導入や施設整備を推進しました。本年度、新たに「ねこ車電動化キット「E-Cat Kit」30台とアシストスーツ2台が導入されました。

(4) 守るべき「農地」の明確化と担い手への農地流動化

4地区の「守るべき園地マップ」を作成しました。今後、これを活用しながら農地流動化を積極的に推進していく予定です。



「植美」樹姿



スマート農機実演会

また、現在、「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」として世界農業遺産に申請中です。産地の価値を高める取組もあわせて進めていますので、今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

一般課題

和歌山市内での種ショウガ生産拡大

和歌山市は全国有数の新ショウガの産地です。その生産に用いる種ショウガは主に県外産地から購入しています。県外産に依存するリスクを軽減するため、平成27年度から和歌山市内で種ショウガ生産の取組を始めました。種ショウガは、新ショウガ栽培と異なる部分が多く、和歌山市やJAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、県農業試験場などと連携し、栽培技術の確立と生産拡大を進めてきました。令和4年度は、8名の生産者が種ショウガ栽培に取り組みました。4月下旬に定植し、11月中下旬に収穫するまで、関係機関とともに各ほ場を巡回し栽培指導や収穫調査を行い、種ショウガの生産拡大及び品質向上を図りました。



種ショウガ収穫調査

一般課題

新規就農者の技術向上支援

農業者数の増加に向けて新規就農者が定着することを目的に、新規就農者の技術・経営力の向上を図るため令和3年度から普及活動を実施しています。

活動内容は、①就農5年以内の新規就農者を訪問し、個別に課題を聞き取りし経営・技術指導を実施、②新規就農者と研修受入農家のマッチング支援、③研修会の開催です。令和4年度は①14名へ個別に技術指導等を実施、②研修会を通じて匠の技伝道師と新規就農者や4Hクラブ員をマッチング、③土づくり研修会など6回の研修会を開催しました。令和5年度も新規就農者の定着に向け、引き続き活動していきます。



土づくり研修会

「匠の技 伝道師」と技術の継承

「匠の技 伝道師」とは

橋詰 孝 氏

開花期の4月、収穫前の10月、剪定時期の2月の3回、栽培管理のポイントとなる時期に研修会を開催しました。若手の農業者を中心に延べ48名の参加者があり、熱心に質疑応答が行われました。研修会以外にも個別に橋詰氏を訪ねて質問に行く研修生もあり、「匠」との師弟関係が結ばれつつあります。



西居 正憲 氏

9月と12月に、西居さんのハウスにて栽培研修会を開催しました。研修会では、西居さんより、定植時の苗の選び方、栽培期間中の肥培管理、温度管理、摘花・摘果の方法、植物の観察のポイントなど、匠ならではの視点で説明がありました。



「食の交流会」を開催しました

令和5年3月9日、和海地方生活研究グループ連絡協議会が地域農産物利用促進や農村女性活動の活性化を図ることを目的に、海南nobinosにて「食の交流会」を開催し、会員・関係者等38名が参加しました。

京都府立大学大学院生命環境科学研究科 農業経営学研究室 中村貴子准教授から「地産地消は環境保全の意識を高めることができるか」と題して講演が行われました。在来種を大切にしている地域農業と消費者を繋げる仕組みの必要性や食育を続けることの重要性について学びました。

また、各市町の生研グループから「白菜としょうがの具だくさんスープ」、「中華ちまき」、「マコモとカニカマの中華風サラダ」など地元農産物を使った健康料理レシピの紹介をしました。



団体の活動

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度から団体活動を控えてきました。

しかし、“Withコロナ”の時代、少しずつ工夫をしながら活動を再開しています。ここでは、令和4年度の活動について紹介します。

令和5年度は、コロナ禍以前の活動を実施していく予定です。

和海地方農業生活団体連絡協議会

和海地方農業生活団体連絡協議会では、例年農業士や4Hクラブなど団体間の交流を図る交流会や研修会を開催していましたが、本年は研修会のみを3月17日開催しました。

研修会では、令和5年10月から開始される「インボイス制度」、農業者の老後をサポートする「農業者年金」について学びました。



河西農業士会

河西農業士会では、簿記研修会と視察研修会を開催しました。昨年度、新たに4名が青年農業士に認定されたことから、青年農業士を中心に農業簿記の研修会を開催しました。研修会は、農業水産振興課の宮向課長を講師に、11月14日、21日、28日の3回に渡り行いました。2月28日には、御坊市の大敷農園と県暖地園芸センターを訪問し、施設園芸の環境制御など先進的に取り組みについて学びました。



受賞おめでとうございます

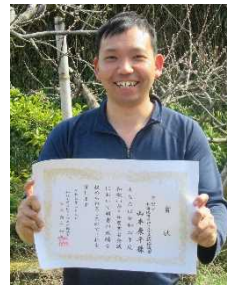
和歌山市農林水産業表彰



吉田 謙二 氏
(和歌山市)

砂地地帯でだいこん、ショウガ、ホウレンソウを中心に収益性の高い農業を実践し、地域振興や後継者支援に努められました。和歌山県農業士会会長をはじめ農業士の実業を歴任されました。また、布引だいこんのブランド価値向上に地域の方々とともに取り組み、その結果、GI（地理的表示保護制度）の認証獲得が令和3年5月に実現し有利販売の礎となりました。

和歌山県青年農業者会議奨励賞



山本 康平 氏
(和歌山市)

和歌山県4Hクラブでは、個人の販売力強化を目標に掲げ活動しています。本年度は産直ECサイトを活用し、EC販売による販売力強化に取組み、活動について和歌山県青年農業者会議で発表しました。農業経営における課題など、クラブ員で意見を出し合い、自身の営農や地域の活性化につながる活動を今後も行っていきます。

産地の担い手確保の支援事業を紹介します

わかやま版新規就農者 産地受入体制整備支援事業

産地の維持・発展のため、就農相談から定着までをトータルでサポートする受入体制を整備する取組を推進しています。

事業名	区分	事業実施主体	補助率
1 産地受入体制整備支援事業	研修受入農家の支援	市町村、農業協同組合、協議会	定額(研修生1人あたり月1万円上限)
2 産地受入研修支援事業	研修支援資金の交付	県	定額(1人あたり年間30万円、最長2年間)

※ 事業の活用には、市町村、農業協同組合及び関係機関・団体等で構成する受入協議会の設立が必要です。

クビアカツヤカミキリにご注意ください

紀北地域で被害が拡大！

クビアカツヤカミキリの被害が急速に広がっています。令和3年には和歌山市内でも確認されました。もも・すもも・うめ・さくら等バラ科の樹木を枯らす特定外来生物で、加害されると3月下旬～10月にかけて大量のフラスが排出されます。畑をよく見回り確認した場合はご連絡をお願いします。

[写真] 左：成虫 右：ミンチ状フラス（幼虫の排泄物と木くず）



令和5年度人事異動による転出入についてのお知らせ

転 出			転 入		
旧職名	氏名	新職名	旧職名	氏名	新職名
部 長	藤木 則博	【退職】	県農林大学校就農支援センター 所長	中谷 方弥	部 長
主 任	古川 豊和	水産局資源管理課 主任	県水産試験場 主査研究員	内海 遼一	主 査
副主査	中野 沙織	県農業試験場 主査研究員	有田振興局地域振興部 主査	中屋 裕紀子	主 査
技 師	坂本 一真	県水産試験場 研究員	農林水産政策局食品流通課 副主査	稲葉 有里	副主査
技 師	向井 和希	農業生産局果樹園芸課 技師	【新規採用】	木村 和樹	技 師
			【新規採用】	乾 隆志	技 師

普及だより 令和5年春号
令和5年3月発行

編集・発行 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課
〒640-8585 和歌山市小松原通1丁目1番地 (県庁第2南別館)
TEL : 073-441-3378 FAX : 073-441-3476
URL : <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/nourin.html>



△ 振興局HPは
コチラから